

市議会3月定例会行政報告

二井田工業団地に誘致企業2社進出

秋田桂城

短期大学について

市議会三月定例会が三月四日招集され、小畑市長が行政報告をしました。その中から、主なものの要旨をお伝えします。

昨年十二月二十二日に文部省の正式認可を受けた秋田桂城短期大学の開学がいよいよ目前となりました。

若年人口の減少から新たな短期大学の設置は大変厳しい中、当市の悲願であった高等教育機関の設置が実現しましたことは、地元の皆様はじめ県北関係者の大きなご支援によるものとあらためて感謝申し上げます。

二月二十日に行われた推薦入試

には、東北、北海道、関東の広い地域から二百二十三人の受験者があり、合格者九十七人中県北から三十七人の合格者が出ています。

三月七日の一般及び社会人入試には定員七十六人に対し二百九十五人の応募があり、地域社会学科で一・七倍、人間福祉学科で三・八倍、看護学科では八・二倍の競争率となっています。

また、建物は二月末で完成していますが、審査の専門家から「すばらしい校舎、施設内容である」との評価をいただいていると聞いています。学校当局では開学に向けハード面、ソフト面とも万全の態勢を整えています。

当市としては、秋田桂城短期大学が名実ともに大きく育つよう支援して参る所存ですので、ご理解とご協力をお願いします。

産業立地シンポジウムの開催について

二月十七日、大館市と大館市企業誘致促進協議会の主催により、リサイクル・マイン・パーク構想を主題とした「大館企業立地シンポジウム」を東京都で開催しまし

た。

シンポジウムには、在京経済人や企業の代表者など七十数名のご出席をいただき、通商産業省の増田課長補佐による「資源エネルギー循環型社会システムの構築に向けて」と題した講演のあと、当市の現状を紹介し、「リサイクル・マイン・パーク構想と企業誘致の展開について」をテーマに意見交換をいたしました。出席者からは前向きかつ建設的な意見が活発に出され、厚いご支援を得られたものと感じています。

六年春、当市の基盤産業の一つでありました「山の灯」が消えることとなり、いち早く国のリサイクル・マイン・パーク事業に名乗りをあげました。鉱山業界に蓄積された技術・設備を活用した新たな産業を生み出すべく、モデル地域指定に向けて鋭意取り組んできたところです。

資源リサイクルを核とした新しいエネルギービジョンに基づく環境産業への進出は、今後の市勢発展に向け大きなプロジェクトになると思います。市民の皆様のご理解を得ながら、なお一層事業推進に努力いたしますのでよろしくご協力をお願いします。

外構工事を残すだけの秋田桂城短期大学(3月6日撮影)

